

マツノマダラカミキリに関する研究 Ⅻ

誘引器周辺でカミキリの後食が多くなる範囲

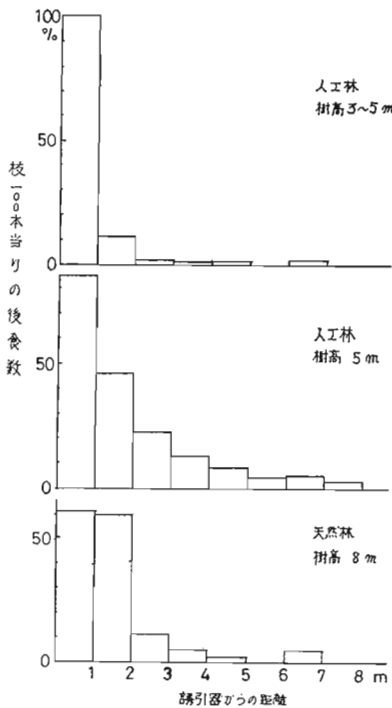
林業試験場九州支場 岩 崎 厚
森 本 桂

マツ林内に餌木を設置すると、その周辺に枯れがでやすくなることが知られているが、これは餌木に誘引されて周辺でマツノマダラカミキリの密度が高くなるためであると思われる。誘引剤を利用してマツノマダラカミキリの密度を低下させる防除法が考えられているが、誘引器の周辺でも集まったカミキリムシの何割が捕殺されるかによって、残った虫で餌木の場合と同じ様なことが起る可能性がある。

誘引器が周辺にどのような影響をあたえるか1974年に調査した結果を報告する。

調査方法

1. 熊本県植木町（熊本営林署打越国有林52林班）にマーキング法による密度推定を目的として設置した



図一 誘引器からの距離と後食数（立田山、1974）

19個と、支場構内および支場実験林（立田山）に設置した17個の誘引器について周辺への影響を調べた。

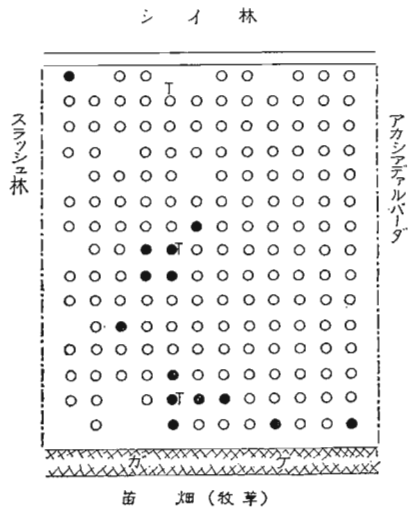
2. 支場実験林の誘引器については、誘引剤からの距離別に当年枝を調べて後食個数を記録し、当年枝100本当りの後食数で影響を表現した。枯損木については樹脂流出が止ったあとの後食は記録から除いてある。

3. 誘引器を中心に、設置木および半径5mと半径5~10m範囲のマツ立木数と枯損数を、11月13日に調査した。

結果と考察

後食数を誘引器からの距離別に枝100本当りで表すと（図一1）、誘引器から遠くなるにつれて急に減少するので、誘引剤によってカミキリムシの後食が多くなる範囲は、林の状況によっても異なるが、今回調査した範囲では最高5m程度の距離までと思われる。

誘引剤によって周辺に後食が多くなることの影響を



図一 2 誘引剤の影響範囲調査例（立田山、人工林、樹高5m）T：誘引器 黒丸：枯損木

表-1 誘引器周辺の枯損率

設置場所	樹高	設置木			5 m 以内			5 ~ 10m			10 m 以上		
		本数	枯損数	%	本数	枯損数	%	本数	枯損数	%	本数	枯損数	%
支場構内	5~8	2	2	100	16	4	25.0	36	3	8.3			
立田山	3~5	-	-	-	22	1	4.5	40	0	0			
立田山	5	2	2	100	56	8	14.3	79	3	3.8			
立田山	5~8	2	2	100	32	2	6.3	64	0	0			
植木	5~15	8	7	87.5	178	32	18.0	429	37	8.6	259	16	6.2

枯損率で調べてみると（表-1），樹幹に誘引器を設置したマツは14木中13木が枯れ，また枯損木は周辺に集中して影響は極めて大きい。

立田山の人工林で枯損木の分布を調べた例を図-2に示したが，誘引器から離れた場所でも崖の上にある林縁木に枯れがでている。植木試験地でも誘引器からやや離れた林縁木や樹高の高い木などに枯損が多少でているので，誘引剤の影響は誘引器から5 m以遠でも林の状況によって多少あるかもしれない。

引用文献

林試九州支場昆虫研究室：マツノマダラカミキリの後食数とマツ枯損の関係。昭和46年度まつくいむしによるマツ類の枯損防止に関する特別研究推進会議資料，13~15，1972。